

プロジェクト Y

－ホタルの自然繁殖を目指して－

代表者 萩野詩季（共獣B3年）
構成員 正木陽登（農学B3年） 豊田実歩（教育B2年） 南里康隆（農学B2年）
岡崎花菜（共獣B2年） 牧野友樹（理学B2年） 竹本真規（人文B2）

1. プロジェクト概要

当プロジェクトは3年計画で進めます。今年はその1年目です。この1年間での活動の目標は「ホタル、ビオトープについて、正しい知識を身に付ける、地域との情報交換を行う」です。そして1年目の成果として、ホタルの飼育マニュアル、ビオトープ管理マニュアルを作成します。

2. 目的

- ①山口大学を含む平川地域を、ホタルの飛び交う環境にする
 - ②無理なく環境保全活動が行える仕組みづくりを作る
- ①に関してはホタルの飛翔数の増加を、②に関しては地域と協力しながら誰もがが行える循環性を持つ環境保全活動を意味します。

3. 活動内容

9月までの活動は、大きく2つです。まず1つは「全国ホタル研究会かつやま大会」への参加。そしてもう1つは山口市「ふるさと伝承センター」への見学です。

3-1, 全国ホタル研究会かつやま大会

6月21日～23日に福井県勝山市で行われた「全国ホタル研究会かつやま大会」へ参加しました。ここではホタル、ビオトープに関する研究をする全国の研究者の方の講演を聞き、ホタルに関して、ホタルが育つ環境に関して、ビオトープの維持の仕方に関して学ぶことができました。

その後の懇親会では講演を下された研究者の方や、研究を聞きに来ておられたホタルに関する博識ある方と意見交換をすることができました。

今まで自分達が行ってきたやり方が、本当に正しいのか考え、様々な状況下でホタルの保護活動を行う方々と情報交換をすることで、山口大学内では一体どういう形で保護すべきなのかを勉強することができました。



写真1 全国ホタル研究会かつやま大会の様子

3-2, 山口市「ふるさと伝承センター」へ見学

8月7日に「山口ふるさと伝承センター」へ見学行きました。「山口ふるさと伝承センター」では大殿小学校の環境教育も兼ねて、保護活動を行っています。本格的な保護施設を実際に見ることで、今後ホタルを飼育する上で必要となるものを把握することができました。ここで学んだことを来年度生かし、より確実に、ホタルを飼育できる施設を準備するための必要物をリストアップすることができました。



写真2 山口ふるさと伝承センターを見学したときの様子

4. 今年度の今後の活動について

残りの今年度の活動としては、施設見学を1回、一般市民を招いての講演会企画を2回、行う予定です。施設見学に関しては11月16日に東京都板橋区にある「板橋区ホタル生態環境館」を訪れる予定です。ここでは施設内でいかにホタルが住みやすい環境を整えて飼育するか、またどのように管理しているか、を学ぶことで新たな視点から自分達に必要なものを把握することを目的としています。

一般市民を招いての講演会企画では、山口で環境保護に力をいれている方を招いた講演会を山口大学内で行う予定です。この講演会は一般の大学生、市民の方も招き一緒に山口の環境について学ぶ機会を提供します。